

「未来を創る教育を子ども達へ！  
～ミンダナオ島学校修繕プロジェクト～」

事業報告書



認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

2022年7月29日発行

## 目次

プロジェクト背景 .....	3
●ミンダナオ島先住民族支援事業について .....	3
●支援先の学校の様子 .....	4
●支援している学校の校舎老朽化問題 .....	5
●校舎修繕に向けた、寄付つきチョコレートの販売(2018年後半～2019年2月) .....	7
プロジェクトの軌跡① クラウドファンディング実施(2019年7～9月) .....	8
●プロジェクト立ち上げまで(2019年7月～8月前半) .....	8
●プロジェクト実施・セカンドゴール設定(2019年8月後半～9月) .....	10
プロジェクトの軌跡② リターン第1・2弾対応(2019年10～12月) .....	11
プロジェクトの軌跡③ コロナ禍による停滞(2020年前半) .....	13
プロジェクトの軌跡④ 着工に向けて(2020年後半～2021年4月) .....	14
プロジェクトの軌跡⑤ 工事計画変更・工事進捗(2021年5～9月) .....	16
プロジェクトの軌跡⑥ 工事完了・リターン対応(2021年10月～2022年7月) .....	20
●竣工式・リターン除幕式開催(2022年3月3日) .....	21
●現地の子どもたちからのお礼状(リターン)の送付(2022年4月15日) .....	22
●完成した校舎の紹介動画、本報告書を限定公開(2022年7月)、プロジェクト完了 .....	23
●(参考)現地の学校の近況(2022年7月時点) .....	23
プロジェクトの今後 .....	24
未来を創る教育を子ども達へ!～ミンダナオ島学校修繕プロジェクト～ 収支報告 .....	25
KPACIO・FTCJ事務局・プロジェクトメンバーから皆さまへ .....	26

## プロジェクト背景

### ●ミンダナオ島先住民族支援事業について

<https://ftcj.org/freethechildrenprogram/area/philippines/mindanao>

当団体フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ) では、海外支援事業の一環として、フィリピン・ミンダナオ島の教育環境や教育の質、生活水準の向上、社会参加などの支援活動を 2018 年度から行っています。



フィリピンの南にあるミンダナオ島と周辺地域には約 2600 万人以上の人々が住んでいます (フィリピン政府の 2020 年国勢調査より算出)。古くから先住民族が暮らし、豊かな自然の中、特有の文化を持つ先住民の村々が多く存在しました。

その後イスラム教が伝来したことでイスラム教徒が増え、16 世紀にスペインがフィリピンを侵略したことをきっかけにキリスト教が全土に広まります。結果、スペインや中国、マレーシアなどから移住してきた人々によって、先住民族のコミュニティは住みやすい土地を奪われ、次第に山奥へ追いやられるようになりました。

山奥に移ってからも彼らは伝統を守り、猟や農業などで自給自足の生活をして暮らしていましたが、その豊かな土地を狙い、鉱山事業者やプランテーション (大農園) 経営者が侵略を始め、伐採と鉱山開発による自然破壊が進みました。また、鉱山開発にはたくさんの労働力が必要なため、安い賃金で子どもたちを雇い、とても危険な仕事 (児童労働) をさせています。

先住民族は土地への侵略に抵抗していますが、政府は軍隊を使って収めようとするので、各地で紛争が絶えません。学校が軍に占拠されることもあり、時には軍隊や民兵は住民を襲います。国内避難を余儀なくされている先住民もいます。

こうした様々な要因が重なり、ミンダナオ島はフィリピンで最も貧しい地域とされています。アクセスの悪い山奥にいることや、紛争が絶えないことから、教育や医療などのサービスを受けにくいことも問題になっています。

当団体は、こうした厳しい現状にあるミンダナオ島の先住民族の人々、特に子どもたちが、貧困から抜け出し、質の高い教育を受け、健康的な生活が送れるようになるため、2018 年 10 月より、アタ、マティサログのコミュニティへの教育支援を開始しました。



先住民族の家。電気やネット回線などの生活インフラが無い家も少なくない。

## ミンダナオ島の先住民族のこれまで

スペインによる植民地支配・外部から移住してきた人々によって住みやすい土地を奪われ、先住民族は山奥へ

→伝統を守り、自分たちの土地制度で猟や農業などで自給自足の生活

鉱山開発者やプランテーション(大農園)経営者などが侵略する

→伐採や開発で自然破壊がおきる

フィリピン政府が企業と結託し、鉱山開発や大規模農園開発を進める

→地域の人々が安い賃金で働かされたり、児童労働が起きたりしているケースも

先住民族が抵抗しても政府は軍隊で収めようとするため紛争が絶えない状態に

「フリー・ザ・チルドレン活動報告会 2021 夏」(2021 年 8 月 25 日)より

### ●支援先の学校の様子

かつてこのコミュニティには学校がありませんでしたが、この状況を改善するため、カトリック系の民間団体が小学校を建設し、40 人程度の子どもたちが教育を受けられるようになりました。ここを卒業すると小学校修了が認定されます。

学校は、小学校には約 3 人先生が在籍し、月曜日から金曜日まで授業があります。毎朝 7 時 20 分に登校し、授業は 7 時 45 分からスタートします。

11 時半まで午前中の授業で、午後の授業は 13 時～

16 時までです。昼食は学校にお弁当を持参するか帰宅して食べ、午後の授業を受けます。



支援先の学校の子どもたちと FTCJ 子どもメンバー (2019 年当時)



現地の学校の様子 (修繕前、2019 年 2 月当時)

## 時間割 (日本の小3・4に相当する学年)

7:20-7:45 国旗掲揚式

(日本でも運動会等の開会式・閉会式の式次第に国旗を揚げ降ろしする枠があり、それに相当するものと思われます)

7:45-8:00 ホームルーム (日本の「学活」に相当)

8:00-8:45 英語

8:45-9:30 フィリピン語

9:30-9:45 15分休み

9:45-10:30 理科

(10:30-11:25 集会等の全校行事など)

11:25-13:00 昼休み

13:00-13:45 社会

13:45-14:00 15分休み

14:00-14:45 算数

14:45-15:30 補習

15:30-15:45 ホームルーム

15:45-16:00 国旗収納式

時間割 (日本語訳)

### ●支援している学校の校舎老朽化問題

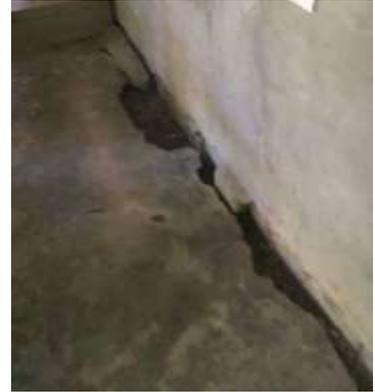
しかし、校舎が建設されてから約 20 年が経ち、資金不足で修繕や手入れも困難だったため、2019 年 2 月時点で建物は倒壊寸前の状態まで老朽化していました。基礎(土台)や床・壁のコンクリートにはひびが入ったり穴が開いたりしており、柱も白蟻に食い尽くされて機能せず、うかつに動けば校舎が揺れ、机や椅子・足が床の穴にはまり、事故や怪我に繋がりがねない状況になっていました。

窓も壊れて遮光できず、晴天の日は熱帯の厳しい直射日光が差し込み、黒板が眩しくて見えなかったり、暑くて授業に集中できなかつたりすることもありました。屋根も至る所が錆びて穴が開いていたため、雨が降れば雨漏りが発生し、教室が水浸しになり授業を中断せざるを得なかった上、フィリピンは一年の半分ほどが雨季なので、こうした状況は日常茶飯事でした。

倒壊寸前の教室で危険・不便だらけ、さらに冷房も水道もトイレも無いという不衛生な状況下で、子どもたちに質の高い教育を提供することが困難になっていました。



朽ちた外装、うかつに触れば外れたり壊れたりして怪我をする危険も



教室内の床は穴だらけ



ブラインドが劣化し、熱帯の強い日差しを遮光できていなかった



屋根も錆びて雨漏りが常態化



倒壊寸前の危険な校舎・教室で授業を受けていた子どもたち

(2019年2月当時)



腐食して釘が露出した壁・扉

SDG4に逆行した状態を改善すること以上に、こうした状況下で「勉強が楽しい!」「もっといろんなことを知りたい!」「学校が大好き!」と、笑顔で語ってくれた子どもたちや、資金難で手が打てずにいる現地のパートナー団体のもどかしい思いに対し、何とかしたいと考えた当団体は、2018年9月から現地NGO(KPACIO: 金光教平和活動センター情報オフィス)と協力し、子どもたちが安心・安全に学校で質の良い教育を受けられるよう、校舎の修繕支援事業を行うことにしました。



## ●校舎修繕に向けた、寄付つきチョコレートの販売(2018年後半~2019年2月)

※本節で記載している「チョコレートプロジェクト」は、コロナ禍などで2019年から中断していましたが、2022年2月から再開致しました。

当団体では、2010年頃から毎年異なるメンバーが寄付つきチョコレートを販売し、その収益の一部を毎年異なるフィリピン支援活動に充てる「チョコレートプロジェクト」を行っています。

前節で説明した「ミンダナオ島の小学校老朽化問題」を受け、2019年の「チョコレートプロジェクト」の収益を現地の校舎修繕に充てることになり、当時の「チョコレートプロジェクト」メンバーが2018年末~2019年春にかけて、当団体が出店したイベント、プランタン銀座(現:銀座マロニエゲート)や珈琲館の都内一部店舗などで以下の商品を販売し、校舎修繕費用として必要な資金250万円のうちの一部を調達しました。



1パック250円で販売、販売価格の6割(150円)を校舎修繕費用として寄付

パッケージデザイン・梱包・販売場所の手配なども各年のプロジェクトメンバーが担当

本書で報告しているクラウドファンディングプロジェクトと、2019年当時のチョコレートプロジェクトを兼ねていたメンバーたちによる説明・報告は <https://readyfor.jp/projects/ftcj-youth/announcements/110597> 及び <https://youtu.be/pzpqOZDly9k?t=2910> をご覧ください。

## プロジェクトの軌跡① クラウドファンディング実施（2019年7～9月）

※動画による説明は <https://youtu.be/pzpqOZDly9k?t=2976> をご覧ください。

### ●プロジェクト立ち上げまで(2019年7月～8月前半)

校舎修繕に必要な費用 250 万円のうち 60 万円は前節の「チョコレートプロジェクト」で調達できました。次に、2019 年夏の間、残る 190 万円をクラウドファンディングサイト「READYFOR」(READYFOR 株式会社)で調達することになりました。

そこで、2019 年 6～7 月前半にかけて、クラウドファンディングを担当するメンバーを、FTCJ の LINE アカウント(現在運用休止中)で募り、計 15 名のプロジェクトチームが発足しました。(在校当時の校則・本人の希望により、氏名・写真非公開のメンバーがいますがご了承ください)

## プロジェクトメンバーの内訳

### ・ 学年は全て2019年度当時

H.Y 高校1年生

菌部 夢有人(そのべ むうと) 大学1年生

後藤 瑞穂(ごとう みずほ) 大学1年生

庄山 桃子(しょうやま ももこ) 高校1年生

杉田 康輔(すぎた こうすけ) 大学1年生

武田 七海(たけだ なつみ) 大学1年生

KAKO 高校2年生

坂口 くり果(さかぐち くりか) 中学1年生

河合 実卯(かわい みう) 大学1年生

酒井 梨奈(さかい りな) 大学2年生

植田 百音(うえだ もね) 高校1年生

瀬戸 美穂(せと みほ) 高校3年生

高橋 七海(たかはし ななみ) 高校1年生

中村 有佑(なかむら ゆうすけ) 中学2年生

中村 伊希(なかむらよしき) 高校3年生



以上、中学生2名・高校生7名・大学生6名の計15名+スタッフ(中島・紫藤)

同年 7 月 22 日、READYFOR 本社（移転前）でクラウドファンディングに関する基本レクチャーを受け、プロジェクト全体のスケジュール決めやプロジェクトページ (<https://readyfor.jp/projects/ftcj-youth>) 公開までに必要となるタスクの洗い出し・担当割り振りを行いました。



READYFOR(株)本社での面談の様子 ※本プロジェクトは「フルサポートプラン」で実施

8 月上旬、プロジェクト用 LINE グループでのやり取りを通じ、プロジェクトページや広報画像・プロジェクト期間中に投稿する新着情報（下記）の原稿・動画などを急ピッチで準備し、8 月 16 日～9 月 30 日の期間でクラウドファンディングを実施しました。



プロモーション動画

<https://www.youtube.com/watch?v=VUkooduYLZk>



プロジェクトロゴ ©中村伊希

メンバーたちが制作した新着情報	
一覧: <a href="https://readyfor.jp/projects/ftcj-youth/announcements">https://readyfor.jp/projects/ftcj-youth/announcements</a>	
メンバー紹介(全 4 回)	8/21・23・27・30
関係者からの応援メッセージ(全 5 回)	8/26・9/8・10・25・26
"チョコプロ"ってなに？	9/5
フィリピンの子どもの現状 ～スタディーツアーの経験から～	9/13
フィリピンの先住民族・スラム街 -スタディーツアーで感じた事-	9/19
「子どもの権利条約」から見た、ミンダナオ島の現状	9/21
テイク・アクション・キャンプで感じた子どもたちのパワー	9/24

## ●プロジェクト実施・セカンドゴール設定(2019年8月後半~9月)

クラウドファンディング期間中は、各メンバーのプロジェクトに対する想いや経験・原体験談、関係者からの応援メッセージ動画を概ね週2程度の頻度で新着情報として投稿し、支援者の皆様から頂いた応援メッセージへの返信も各メンバーが試験時期などを配慮し合い、時期毎に担当者を分けて全件返信しました。

結果、第1目標としていた190万円は9月27日の夜に達成し、校舎修繕に加え、現地のお手洗いの修繕費用30万円も調達すべく、セカンドゴールを220万円に設定し、残りの3日間でラストスパートをかけました。



赤い丸のように、床がひび割れしている状態です。また、壁にはビニールでカバーされていることが分かります。

写真のように、壁のつなぎ目がもろく、「今にでも崩れるのではないかと、不安な気持ちになりながら使用している状態です。



修繕した学校には生徒用のトイレもあるが壊れていて使えず、1つの教員用トイレを約50人の生徒・教員で共用している。

その教員用トイレも写真のとおり崩壊寸前の状況になっている。

セカンドゴールには惜しくも届きませんでしたが、最終的に100名を超える方々から総額211.5万円のご支援をいただきました。ご支援くださった皆さま、本当にありがとうございました。



グローバルフェスタ JAPAN2019(9月28・29日)では、メンバーがブース内外で募金箱を持ってチラシを配布するなど、最後の広報活動を展開

## プロジェクトの軌跡② リターン第1・2弾対応(2019年10~12月)

プロジェクト終了直後、2019年10月下旬に第1弾として、フェアトレードドライマンゴー、リサイクルトマトジュースバッグLとプロジェクトメンバーからのお礼状とお礼メールを発送致しました。

当時の新着情報:<https://readyfor.jp/projects/ftcj-youth/announcements/114781>

※プロジェクト期間後にランチチョコレートが諸事情で手配できなくなり、リターンをドライマンゴーへ変更したことを改めてお詫び申し上げます。



左:フェアトレードドライマンゴー (<https://ftcj.ocnk.net/product/287> から購入可)

※2022年に包装をリニューアルしましたが中身は同じです。

右:リサイクルトマトジュースバッグL (<https://ftcj.ocnk.net/product/182> から購入可、写真もプロジェクトメンバーが撮影)



お礼状制作の様子(2019年10月20日)、1通1通全て手作りかつオリジナル

【READYFOR リターン】ユースメンバーからのお礼メール

※本メールは、「未来を創る教育を子ども達へ!ミンダナオ島学校修繕プロジェクト」

<https://readyfor.jp/projects/ftcj-youth> にご支援いただいた皆様へ Bcc にてお送りしております。

～様

いつもお世話になっております。

「未来を創る教育を子ども達へ!ミンダナオ島学校修繕プロジェクト」ユースメンバーです。

この度は、本プロジェクトへのご協力ありがとうございました。

211.5万円という、目標額を大きく上回る額のご支援をいただき、メンバー一同より感謝しております。

今回のクラウドファンディングは、私たちにとっては初めてのクラウドファンディングでした。

そのため、分からないことがとてもたくさんありましたが、同時に多くのことを学ぶことができました。

ミンダナオ島の学校の現状を皆さまにどう伝えるか、私たちの思いをどのようにして発信するかなど、表現力や発想力といった伝え方の面で、たくさんの経験を積むことができました。

プロジェクト中盤に支援額が伸び悩んだり、新着情報の原稿が遅れてしまったりと困難はありましたが、皆さまの暖かいご支援、そしてメッセージが何よりも力になりました。重ねて御礼申し上げます。

クラウドファンディングは終了しましたが、学校修繕そのものは始まったばかりです。

これからもプロジェクトへの応援、そしてフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動へのご協力よろしくお願いたします。

認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

「未来を創る教育を子ども達へ!ミンダナオ島学校修繕プロジェクト」

ユースメンバー 一同

メンバーからのお礼メール(2019年10月23日配信)

第2弾のFTCJ ニュースレターは2019年12月23日に、当団体の [2019年度アニュアルレター](#) に同封して発送致しました。

当時の新着情報: <https://readyfor.jp/projects/ftcj-youth/announcements/119562>

## プロジェクトの軌跡③ コロナ禍による停滞(2020 年前半)

※動画による説明は <https://youtu.be/pzpqOZDly9k?t=3291> をご覧ください。

当初予定していた4月の着工に向け、現地では修繕に必要な資材や人員を手配していましたが、医療体制が全国的にまだ整っていないフィリピンでも新型コロナウイルスの感染が拡大し、医療崩壊を懸念したフィリピン政府は徹底的な外出制限や物流の制限などの厳しい措置を講じました。

### 参考：フィリピンの新型コロナ対策

- 大きく分けて4段階 **ECQ>MECQ>GCQ>MGCQ>New Normal**
- MECQ以上で公共交通機関運休、自家用車も利用禁止
- 各地の感染拡大状況に応じ柔軟に運用、変更
- 区をまたぐ程度の移動、生活必需品の買い出しでもPCR検査の陰性証明、政府や自治体の**通行証(Quarantine Pass)**の携行が必須
- 通行証は世帯主など、**限られた人にしか発行されない**
- PCR検査結果の有効期限はせいぜい半月
- **検査や通行証発行自体も高額で経済的な負担が大きい**ため、警戒レベルが上がると誰も移動できなくなり、事実上ロックダウン状態に

フィリピンの新型コロナウイルス対策は日本の緊急事態宣言とは比べ物にならないほど厳しい

「フリー・ザ・チルドレン活動報告会 2021 夏」(2021年8月25日)より

こうした厳しい感染防止措置により、工事の資材を現地へ運べなくなってしまった、現地で工事をする人員を集められなくなってしまった、工事すること自体も政府や自治体から許可を得る必要が生じてしまったことで、4月の着工が不可能になってしまいました。

さらに、現地コミュニティの責任者(村長のような立場の方)が初夏に急逝し、急遽後任を選んだり、引き継ぎを行ったりするなど、現地のコミュニティもコロナ禍とは別の混乱が生じ、パートナー団体(KPACIO)と後任のコミュニティ責任者との信頼関係を再構築する必要も重なりました。

パートナー団体のスタッフも高齢の方が多く、フィリピン政府による外出制限のため現地へ足を運ぶことができず、現地への連絡・確認も、何重もの人づてで行いざるを得ない状況だったため、工事準備を再開するまでに相当な時間を要することになってしまいました。

当時の状況報告記事：<https://ftcj.org/archives/16139> <https://ftcj.org/archives/17547>

## プロジェクトの軌跡④ 着工に向けて(2020 年後半～2021 年 4 月)

フィリピンでは 2020 年 8 月に新型コロナウイルスの感染が急拡大したため、フィリピン政府は 6～7 月にかけて緩和していた外出制限措置を再び強化しました。さらに、10～12 月にかけて記録的な大型台風(特に 19・22 号)が連続接近・上陸、火山噴火や大地震などの災害も起きたため、人員削減・時短で運営していた行政の機能はますます低下し、校舎修繕工事の建設許可に向けた手続きが停滞していました。

当時の状況報告記事:<https://ftcj.org/archives/18144> <https://ftcj.org/archives/21018>

修繕する学校も 10 月から授業再開し、分散登校・対面授業でしのいでいたが、やはり授業が大幅に遅れ、「教育の質の低下」も起きていました。

- ・ 支援対象の学校はそもそもネット回線がないので、分散登校による対面授業でしのいでいたが、やはり授業が大幅遅延
- ・ 長期の休校措置、例年 6 月開始の新年度が 10 月に延期、強引な教育のオンライン化など、**フィリピン国内の教育の混乱状態が未だ続いている**
- ・ 修繕対象の学校以外でも、オンライン授業についていく以前に、「教育にアクセスする(教育を受ける)こと」自体が困難になっている世帯が多く、**教育格差の急拡大は深刻な問題に**

フィリピンのコロナ禍による教育面への影響

「フリー・ザ・チルドレン活動報告会 2021 夏」(2021 年 8 月 25 日)より

2021 年 3 月、ようやく自治体・フィリピン政府から校舎修繕工事の建設許可が下り、4 月中に工事の人員や必要な資材を準備しました。並行して、学校では 4 月下旬頃に 2020 年度の卒業・修了式が行われました。



現地の卒業生たちは「あまり学校に来られなくて大変だったけど、卒業できて嬉しい!」とコメントしていた



卒業・修了式の様子

当時の進捗報告記事：<https://ftcj.org/archives/24756>

## プロジェクトの軌跡⑤ 工事計画変更・工事進捗 (2021年5~9月)

※動画による説明は <https://youtu.be/pzpqOZDly9k?t=3628> をご覧ください。

当初の予定より1年遅れてしまいましたが、2021年5月からやっと校舎修繕工事が始まりました。しかし、建築資材高騰・工事の長期化による人件費の増加などのコロナ禍による影響に加え、下記の3棟のうち2棟の基礎部分が修繕不能なほど老朽化し、寧ろ取り壊す方が良くことが判明したことから、「**修繕可能な1棟は修繕して倉庫へ転用(工事中は資材置場としても機能)、修繕不可能な2棟は解体、別途大きな教室棟を1棟新造、3棟分の教室を集約**」という工事計画へ変更することになりました。



工事計画変更のイメージ図(「フリー・ザ・チルドレン活動報告会 2021夏」より)

こうして、5月8日に「着工式・地鎮祭」に相当する式典が行われ、工事がやっとスタートしました。現地でもコロナ禍による食糧問題が起きていたことから、現地の男性4人を作業員として雇い、資材を運んだり、地面を掘ったりするなどの単純作業を任せ、給与として食糧を提供する支援活動も並行して実施しました。(この費用も皆様からのご支援を充てさせていただきました。)



また、工事が始まったことを受け、8月25日に当団体新イベント「フリー・ザ・チルドレン活動報告会」の初回メインコーナーとして、本プロジェクトの進捗報告(本報告書19ページまでの内容)も行いました。

アーカイブ動画: <https://youtu.be/pzpqOZDly9k>



・工事初期の様子



日本の「着工式・地鎮祭」に相当する式典の様子



作業員として雇った、現地住民の男性たちによる作業の様子



学校の周りには道路がないため(画像内の道のみ)、工事に使う資材は学校から離れた場所から手持ちで運ばなければならない。

6~7月にかけて、フィリピンでも豪雨災害があり、この唯一の道が土砂崩れて被災、復旧に時間を要した。

なお、8月12日未明にミンダナオ島でM7.2の地震が発生したが、工事や現地に影響や被害は出なかったとのこと。

・倉庫へ転用する校舎の修繕の様子

BEFORE



AFTER



全面にひび割れや穴のあった、コンクリート床の打ち直し

BEFORE



AFTER



錆びて穴だらけだった屋根の交換準備・防錆処理

・新教室棟建造の様子



水周りや柱など、基礎部分の準備



壁・窓枠・柱の構築



屋根設置



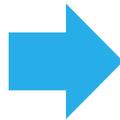
内装工事 (画像上部にレールが設置されており、大型会議室と同様、可動式パーティションで3教室分を区切る)

## プロジェクトの軌跡⑥ 工事完了・リターン対応(2021年10月~2022年7月)

工事は9月で完了し、新しく建てた校舎棟(下記画像)は完成直後の2021年10月から早速使用されているそうです。また、解体せず修繕した旧教室1棟も、工事が終わったことで資材置場から資料・備品室へと役割を変えて引き続き使用されているそうです。



完成直前の校舎(再掲)



完成した校舎(外観)



完成直前の校舎内装(再掲)



屋根の防錆処理(再掲)



完成した校舎(内装)。旧教室棟で木造だった壁は床と同じコンクリート製へ、錆びて雨漏りが酷かった屋根も防錆処理を施し、丈夫な材質へ変更。黒板部分(写真左)は可動式パーテーション(スライディングウォール)になっており、取り外して隣の教室と部屋を繋げられるようになっている。

●竣工式・リターン除幕式開催(2022年3月3日)

建物の完成を祝う竣工(落成)式は当初2022年1月28日を予定していましたが、現地のコロナ禍が悪化したため、3月3日に延期して執り行われました。式典では式辞や国歌斉唱のほか、子どもたちによる歌やダンスが披露されたそうです。



現地コミュニティ(バランガイ)代表者からの式辞



国歌斉唱



現地パートナー団体のハリエツさん(写真右側)も  
首都マニラから竣工式に参加



子どもたちの歌と踊り

また、この竣工式と併せて、30万円の支援コース限定のリターン「支援者さまのお名前を記載したメタルプレート」の除幕式も行われました。

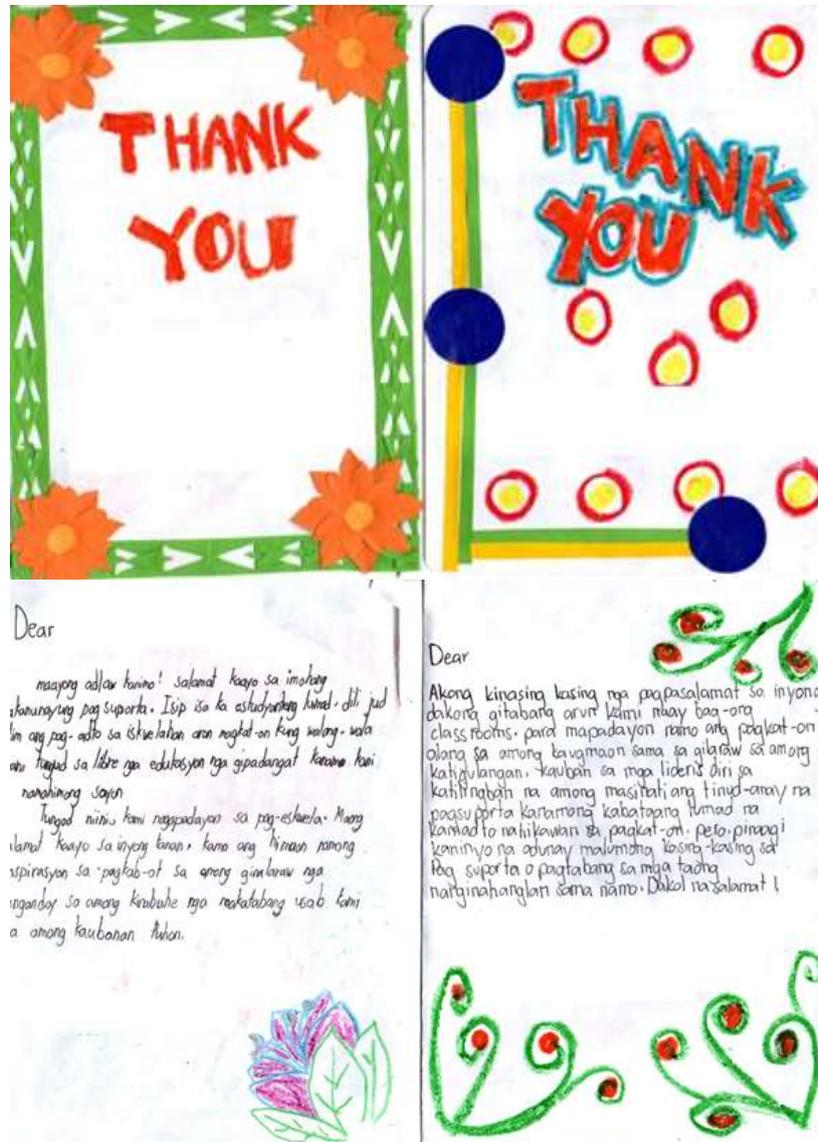
※当初、READYFORのプロジェクトページには「支援者さまのお名前を記載したタペストリー」と記載していましたが、コロナ禍で工事や資材のコストが嵩(かさ)んだことや、タペストリーを手配するために時間やコストを要したことから、記名・現地の新校舎に掲示するものを、納品が早く、タペストリーよりも安価に手配できる「小型のメタルプレート」へ変更(結果としてグレードアップ)することになりました(該当の支援者様全員からご了承いただいています)。



●現地の子どもたちからのお礼状(リターン)の送付(2022年4月15日)

当団体・現地パートナー団体ともに、2021年12月中旬にフィリピンのほぼ全土へ甚大な被害をもたらしたスーパー台風「ライ」の被災者に対する緊急支援(詳細:<https://ftcj.org/archives/31431>)を優先していたため、対応が遅くなってしまったのですが、10・30万円の支援コース限定のリターン「ミンダナオ島の子どもたちからのサンクスカード」が3月末に現地から当団体事務所へ届きました。

和訳を添え、[2021年度アニュアルレター](#)に同封する形で対象の支援者様へサンクスカードを郵送致しました。



ミンダナオ島の子どもたちからのお礼状(一部・表紙) ※個人情報保護のため画像を加工しています

<お礼状の内容(和訳・抜粋)>

- ・先住民族の学生にとって、無料で教育を受けられることはとても貴重なことです。学校があのまま修繕されなければ、私たちは学校に通うことができなくなっていたと思います。
- ・皆様のご支援のおかげで私たちは勉強を続けることができ、両親や近隣のおとなの皆さんも喜んでます。
- ・皆様のおかげで小学校を卒業することができました。将来の夢を叶えるため、いただいたご支援を無駄にせぬようこれからも全力を尽くします。

●完成した校舎の紹介動画、本報告書を限定公開(2022年7月)、プロジェクト完了  
3万円以上の支援コース(一部除く)のリターンとしていた「完成した学校紹介動画」の元データが6月中旬に現地から届いたので、和訳字幕と、10・30万円のご寄付をいただいた方のお名前をエンドロールに記載し、編集した動画を当団体 Youtube チャンネルで限定公開しました。先述した校舎や竣工式の様子のほか、現地の学校やコミュニティの責任者、PTA 会長、先生方へのインタビューが収録されています。



完成した校舎紹介映像(キャプチャ)



関係者へのインタビュー映像(キャプチャ)

最後に、5万円以上(一部除く)のご寄付をいただいた皆様のお名前を本報告書巻末に記載し、対象の支援者の皆様へメールで送付したことで、本プロジェクトを完了致しました。

●(参考)現地の学校の近況(2022年7月時点)

現地の小学校では、5月末に2021年度の終業式・卒業式が実施されたそうです(2020年度卒業式の様子はP.14~15参照)。DepED(フィリピン教育省)によると、フィリピンの学校の2022年度は8月22日~2023年7月上旬を予定しており、(感染拡大防止対策を万全にしたうえで)対面授業も全面再開していく方針とのこと。 (フィリピンの本来のアカデミック・イヤーは6月~翌年3月)

## プロジェクトの今後

※動画による説明は <https://youtu.be/pzpqOZDly9k?t=4211> をご覧ください。

先述したとおり、本プロジェクトで修繕した学校にはもともと生徒用トイレがあったのですが、老朽化で壊れて使えなくなってしまったため、もう一つの教員用トイレを生徒・教員約 50 人で共用していました。その教員用トイレも老朽化で床がひび割れ、壁のブロックが崩落寸前という、大変危険な状態になっています。そのため、今後はこれらの生徒・教員用トイレの修繕・再整備工事実施に向けて活動を続けてまいります。



赤い丸のように、床がひび割れている状態です。また、壁にはビニールでカバーされていることが分かります。



写真のように、壁のつなぎ目か、もろく、「今にでも崩れるのではないかと、不安な気持ちになりながら使用している状態です。」



SDGs でもそれぞれ 4 と 6 で定められているように、学校/教育とトイレの整備には密接な関係があります。もし、学校にトイレがなければ、屋外の穴・川などへ用を足しに行ったり、授業中に腹痛を催した時などの緊急時に対応できなくなったりしてしまいます。

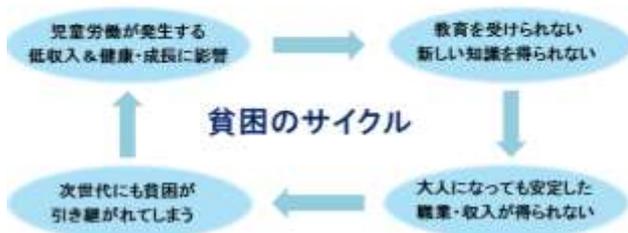
特に女の子の場合、野外排泄時に(性的)暴行を受ける可能性があったり、生理に対応できなくなったりするため、トイレがないために学校を欠席・中退してしまうケースが少なくありません。こうして教育を受けられないことは貧困の悪循環に直結してしまいます。(詳細は <https://ftcj.org/archives/27251> をご覧ください)

### 安全なトイレが使えないとどうなる？

#### 1. 不衛生な水やトイレの影響で病気にかかりやすくなる

- 病気にかかるとうちや仕事に行けなくなってしまう
- 最悪の場合、命を落としてしまう

学校や仕事に行けないことはどういふことなのか？



#### 2. 女の子たちが危険にさらされてしまう

- 他の場所で用を足す時に、下品なことを言われてしまう
- また、襲われたり性的暴行を受けたりするおそれがある
- 月経に対応することができなくなる

このような理由でトイレに行くことをためらい 学校を欠席・中退してしまう子どもたちがいる

学校のお手洗いを修繕すること

教育だけでなく、貧困や経済問題も解決できる！

「フリー・ザ・チルドレン活動報告会 2021 夏」(2021 年 8 月 25 日)より

未来を創る教育を子ども達へ!～ミンダナオ島学校修繕プロジェクト～ 収支報告

収入	
クラウドファンディング（手数料除く）	¥1,552,000
寄付つきチョコ販売プロジェクト（2019年当時、P.7参照）を通じた寄付	¥473,800
<a href="#">「ペンパルサポータープログラム」</a> を通じた寄付・一般寄付	¥512,150
合計	¥2,537,950
支出	
建築資材	¥942,881
建設事業人件費	¥372,059
その他（輸送費・交通費・通信費・機材レンタル料・竣工式費用など）	¥760,656
プロジェクト管理費	¥462,354
合計	¥2,537,950

## KPACIO・FTCJ 事務局・プロジェクトメンバーから皆さまへ

※プライバシー保護のため、写真なし・仮名のスタッフ・メンバーがいますがご了承ください。

<p>支援者の皆様へ心より感謝申し上げます。そして、日本から遠く離れたミンダナオ島の子どもたちの教育のために尽力いただいたプロジェクトチームの皆さん、本当にありがとうございました。若い人たちが同世代のことを想って活動することは大変尊いことであり、私たちも力づけられています。今後も、現地の子どもたちにより質の高い教育を提供するため、引き続き活動を続けてまいります。皆さんも引き続き世界をよりよくするムーブメントへ是非参加し続けてください。</p>	 <p>KPACIO (金光教平和活動センター情報オフィス) 代表 ハリエット・エスカーチャ</p>
<p>私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、誰でも、人にはギフト(才能や、得意なこと)があって、そのギフトは人によって違いがあるからこそ、お互いにもちよって、活動に活かし、補い合い、協力すればみな、変化を起こすことができる、というモットーで活動しています。今回、ユースチームのメンバーは、各自のギフトを活かして、協力し合い、声を掛け合って活動を続けました。そして、多くの方々が、その姿勢に共感してくださり、応援いただき、最初の190万円という学校修繕に必要な大きな金額を集めることができました。本当に、これは、とても大きな成果で、凄いことだと思っています。改めて、ユースチームのみなさんの想いに共感して、ご支援ご協力くださったすべての皆様に、心から感謝申し上げます。</p>	 <p>認定 NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 代表 中島 早苗</p>
<p>当時、クラウドファンディング・フィリピン支援ともに初だったため、プロジェクト準備と並行して色々と猛勉強した思い出があります。大急ぎでインプットした知識に加え、メンバーたちがお手洗いの修繕や子どもの権利条約などについて声を上げている姿からも、自分の中で理由無く「そういうもの」「変えられない」といった決め付けが如何に多く、長く内在していたか、それらが様々な自分の可能性を封殺していた(自分がこれまで色々と損をして生きてきた)ことに気付かされました。未曾有のパンデミックにより、当初1年で完結する予定が3年もかかってしまいましたが、本プロジェクトにご協力・ご支援いただきました皆様、「READYFOR(株)」の皆様に改めて御礼申し上げます。</p>	 <p>クラウドファンディング運営・広報 子ども・ユースチーム担当 紫藤 聖也</p>

今回、このプロジェクトを通して感じたこととしては、かなり大変で、責任が重かったと言うのがあります。その反面、フィリピンの小学校のために皆さんから支援いただけたことにとても感動しました。

皆さんから支援していただいたお金を、自分たちが責任を持って、フィリピンの子どもたちの未来のために届けていきたいと感じました。

また、みんなが一丸になれば成功しないプロジェクトだと感じました。私にとって、クラウドファンディングは初めての経験でありながら、とても貴重な経験になり、このプロジェクトに携われてとても光栄に思います。



杉田 康輔 (すぎた こうすけ)  
プロジェクト当時大学 1 年

本プロジェクトを通して、不可能は可能になると感じました。残り 7 日で 63% までしか達成できなかったのが、残り 5 日で 77%、残り 2 日で 99% と急上昇し、期間内に目標の 190 万円を集めることに成功しました。

私たちの情報拡散や新着情報に投稿した想いが、ご寄付をされた皆様の心に届いたのではないかと感じています。このお金で、未来を創る子どもたちの成長に繋がるよう、引き続き活動を進めていきたいと思ひます。



菌部 夢有人 (そのべ むうと)  
プロジェクト当時大学 1 年

今回、私にとって初めてのクラウドファンディングでした。

この体験を通して、クラウドファンディングは、みんなが同じ目標に向かって、一丸となって初めて成功するものだと感じ、クラウドファンディングの実現性を実感しました。

ご支援してくださった皆さま、ありがとうございました。

今後も支援者の皆様に良い報告ができるよう、引き続き頑張っていきます。



植田 百音 (うえだ もね)  
プロジェクト当時高校 1 年

私たちのプロジェクトに多大なご支援をくださり、ほんとうにありがとうございました。このクラウドファンディングを始める前は、プロジェクトページをどう構成したら想いが伝わるかを一生懸命考え、プロジェクト中は、毎日ページを確認し、つい 1 週間前までは達成できるかハラハラして、まるでジェットコースターに乗っているような気持ちでした。

今、こうして、みなさまのご支援に込められた想いをミンダナオ島の子どもたちに届けられることに感謝します。このプロジェクトを通して、ご支援くださったみなさまも、ミンダナオ島の子どもたちも、メンバーの私たちも、みんなが笑顔になれることを祈っています！



坂口 くり果  
プロジェクト当時中学 1 年

<p>皆様の温かなご支援のおかげで無事に190万円の目標を達成することができました。子ども達へ実際に学校修繕という形で、想いを届けることができとても嬉しいです!ありがとうございました。</p>	<p>庄山 桃子 プロジェクト当時高校1年</p>
<p>グローバルフェスタ2019では、募金活動やグッズ販売をするだけでなく、フィリピンで支援事業をされている他のNGOの方やミンダナオ島からいらした大学の先生など、様々な方にお会いすることもでき、プロジェクトを成功させてミンダナオの役に立ちたいという思いをさらに強めることができました。ご協力くださいました皆さまに感謝いたします。</p>	<p>KAKO プロジェクト当時高校2年</p>

### 本プロジェクトにご寄付いただいた皆様(敬称略)

仁田 洋介、今田 裕実子、小坂 優、小林 千恵子、黒澤 公人、丹藤 京祐、長澤 滋、谷内 真由美、  
J.Fujiwara、Nana Sakaguchi、中川 薫、小沢 隆  
他、100名を超える方々からたくさんのご支援をいただきました。心より御礼申し上げます。



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン / Free Free The Children Japan



「未来を創る教育を子ども達へ! ~ミンダナオ島学校修繕プロジェクト~」事業報告書 2022年7月29日発行

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 安藤ビル3F

<https://ftcj.org>

☎ 03-6321-8948

📞 080-3218-5693

📠 03-6323-6504

✉ [info@ftcj.org](mailto:info@ftcj.org)

